“高松は大丈夫”は大きな間違い！

高松は、自然災害が少なく、穏やかな地域だと言われてきました。しかし、近年「南海トラフ地震」が起こる可能性が少しずつ高まり、近い将来必ず発生すると言われています。そこで、まず私たちができることは、「南海トラフ地震」について、正しく知って、正しく備えておくことです。地震に対する正しい知識があれば、不安や恐怖を軽減できるだけでなく、今、何をしておくべきか、そして、地震が来たときに何をすべきかがわかります。かつてない大地震に備え、今できることを一緒に考えていきましょう。

1. 今後30年以内に起こる確率70パーセント 近い将来、わたしたちのまちで大地震が発生する！

マグニチュード8～9クラスの南海トラフ地震発生の確率は、「今後30年以内に70％程度、50年以内に90％程度」となっています。
地震発生確率値は、過去の地震活動記録を統計的に処理し、「今後ある一定期間内に地震が発生する可能性」を確率で表現したものです。

南海トラフ地震の発生確率

地震調査研究推進本部
基準日：平成26年1月1日

10年以内	30年以内	50年以内
20％程度	70％程度	90％程度

南海トラフ地震とは？

南海トラフ地震は、太平洋沖に帯状に伸びている南海トラフで起こる地震のことです。南海トラフの各所では、東海地震、東南海地震、南海地震などマグニチュード8クラスの地震が100年から200年ごとに発生しています。その中で、1000年に1度あるいはさらに低い確率で発生する、マグニチュード9クラスの地震を最大クラスの南海トラフ地震と呼んでいます。

※平成23年3月11日、東北地方太平洋沖地震のマグニチュードは9.0です。

南海トラフとは？

南海トラフは四国の南の太平洋の海底にある水深4,000mの深い溝（トラフ）のことです。溝（トラフ）はユーラシアプレートの下にフィリピン海プレートが沈み込んでできた帯状のもので、北は静岡県の駿河湾、富士川河口付近から南は九州沖まで達しています。

※トラフとは、細長い海底地形のことで、深さが6,000mより浅いもの。これより深いものが海溝。

2. 最大クラスの南海トラフ地震により高松で予想されることは？

揺れ ▶ P5へ
大きな揺れが発生します。市内の最大震度は6強、広い地域で6弱の揺れが想定されています。

津波 ▶ P6へ
高松市内の最高津波水位は、志度湾に面した地域で海抜3.8mの予想です。

ため池の決壊（陸の津波）
ため池の決壊で周辺の地域が浸水する恐れがあります。
▶河川・高潮・ため池ハザードマップ参照

河川堤防の崩壊
大きな河川の周辺では、川の水で浸水する可能性があります。
▶河川・高潮・ため池ハザードマップ参照

液状化 ▶ P8へ
埋立地や砂地などでは揺れによって液状化が起こり、建物が傾くなどの被害が予想されます。

急傾斜地崩壊・地すべり ▶ P40～P87
地盤が軟らかくて急斜面のところでは、揺れによる山崩れや地すべりが起こりやすくなります。▶ 地域コミュニティ別ハザードマップ参照

高松に影響を及ぼす 長尾断層帯と中央構造線断層帯

高松市およびその付近には2つの活断層があります。1つは讃岐山脈の北縁に分布する「長尾断層帯」で、さぬき市から高松市香南町まで続いており、長さは約24kmです。もう1つは讃岐山脈の南縁を東西に伸びる「中央構造線断層帯」です。2つの活断層による地震発生の可能性は今のところは低いと言われています。長尾断層帯の30年以内の地震発生確率はほぼ0%、中央構造線断層帯はほぼ0%～0.3%とされています。

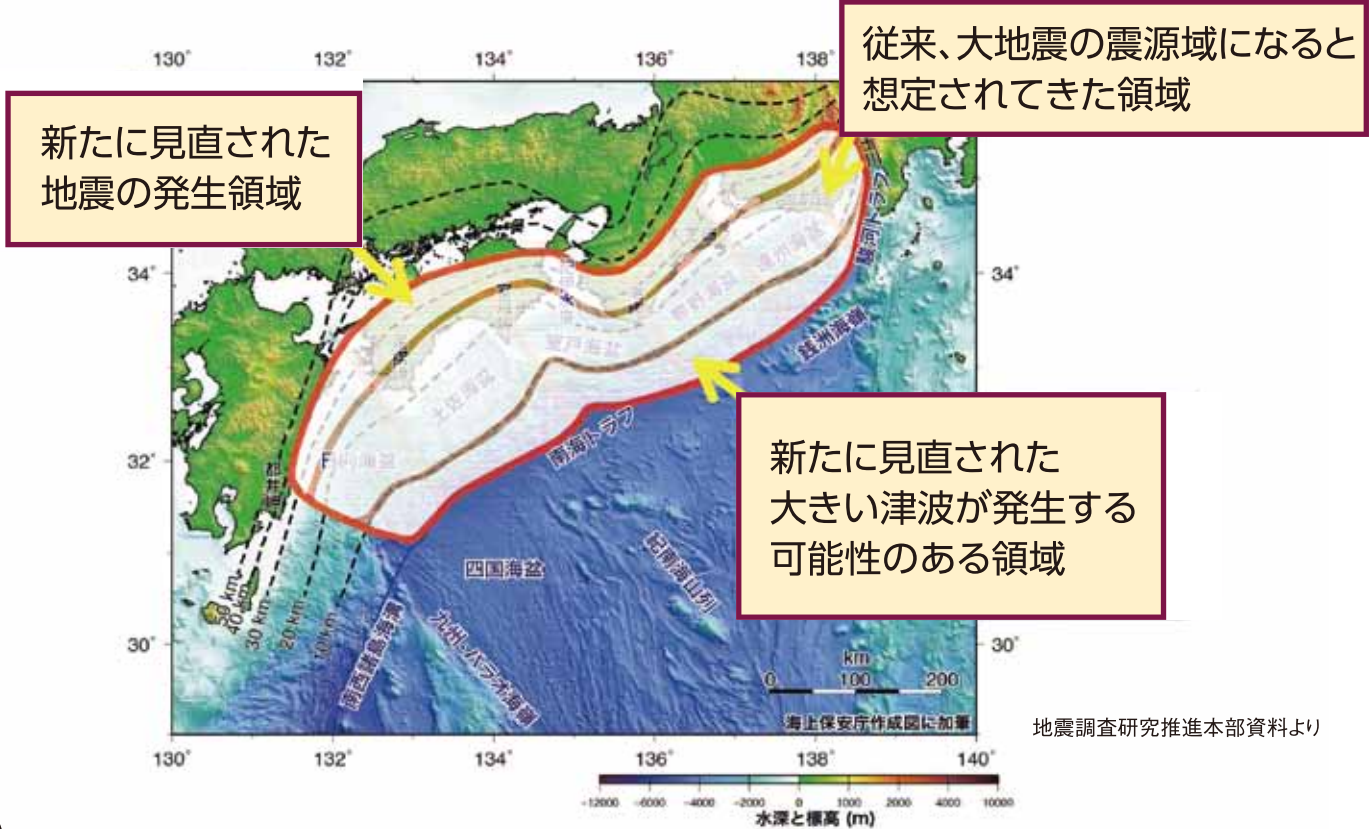
想定される地震の活断層

南海トラフ地震の新被害想定について

“正しく知って、
正しく備える”
今が、その時です!!

平成23年3月11日に発生した東日本大震災を教訓に、国では、南海トラフ地震について、最新の科学的知見に基づいた最大クラスの巨大な地震・津波の可能性を検討し、新たな被害想定を策定しました。その後、平成25年3月から平成26年3月までの間に、4次にわたり、香川県では、さらに詳細な南海トラフ地震などの被害想定を策定しました。この防災マップでは、基本的に最大クラスの地震・津波について話を進めます。ただし、この想定は次に起こる地震・津波を想定したものではありません。

新たな地震・津波の発生が想定される領域

地震調査研究推進本部資料より

香川県地震・津波被害想定が公表されました。

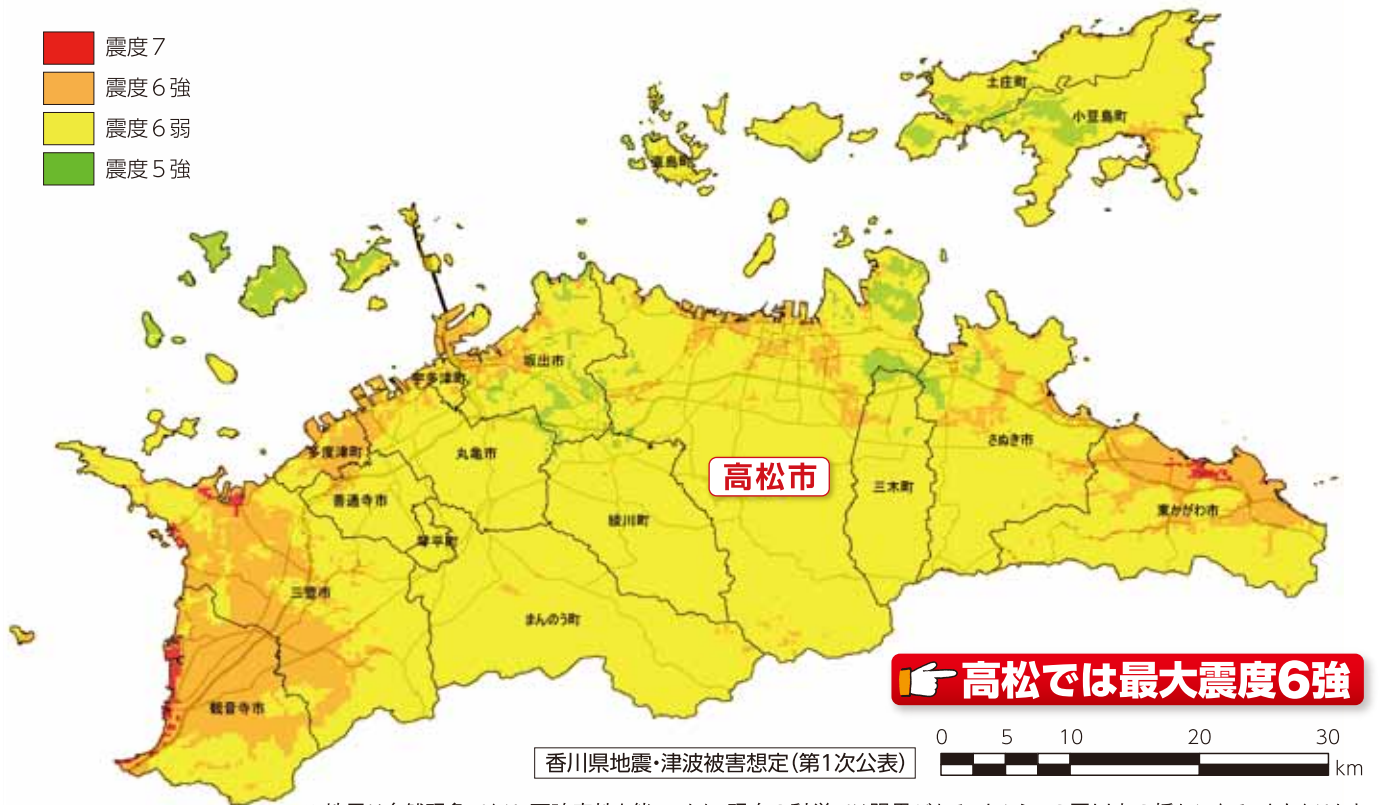
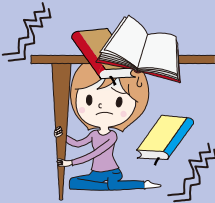
地震・津波を「正しく知り」、「正しく判断」、「正しく行動する」ために、南海トラフを震源域とする最大クラスおよび発生頻度の高い地震・津波などの被害想定が公表されました。

高松市における主な被害想定

南海トラフ地震・津波	**最大クラスの地震・津波が発生した場合** 発生頻度は極めて低いものの(千年に一度、あるいはそれよりもっと低い頻度)、甚大な被害をもたらす。	**発生頻度の高い地震・津波が発生した場合** 最大クラスに比べて発生頻度は高く(数十年から百数十年に一度程度)、大きな被害をもたらす。
最大震度	6 強	6 弱
津波浸水面積	1,701 ヘクタール	218 ヘクタール
死者	1,200 人 [冬深夜]	少ないが被害あり [夏 12 時]
負傷者	4,600 人 [冬深夜]	360 人 [冬深夜]
避難者(避難所)	43,000 人	13,000 人
建物被害(全壊)	6,100 棟 [冬 18 時]	840 棟 [冬 18 時]

※[ ]は想定時間帯

香川県震度分布予測図（最大クラスの地震）

この震度分布図は、南海トラフで最大クラスの地震を発生させる強震断層モデルとして国が示した4つのモデルにおける、震度の最大値を抽出してまとめたものです。

※地震は自然現象であり、不確実性を伴い、また、現在の科学では限界があることからこの図以上の揺れになることもあります

どれくらい揺れる?周囲はどうなる?

地震が発生すると、震源に近い場所では揺れが大きく、遠い場所では揺れが小さくなります。このような揺れの大きさ（強さ）を表現する尺度が震度です。各震度によって、人の体感・行動、屋内・屋外の状況が異なります。

地震による揺れ

震度	5弱	5強
人の体感・行動	大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
屋内・屋外の状況	つり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがある。まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。道路に被害が生じることも。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちる物が多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることも。窓ガラスが割れて落ちたり、補強されていないブロック塀が崩れたり、据付不十分な自動販売機が倒れることがある。車の運転は困難。

震度	6弱	6強	7
人の体感・行動	立っていることが困難になる。	立っていることができず、はわないと動くことができない。	揺れに翻弄され、動くこともできず、飛ばされることがある。
屋内・屋外の状況	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものも。ドアが開かなくなることがある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。壁のタイルや窓ガラスが破損・落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが倒れる。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。壁のタイルや窓ガラスが破損・落下する建物がさらに多くなる。

※気象庁震度階級関連解説表より作成。

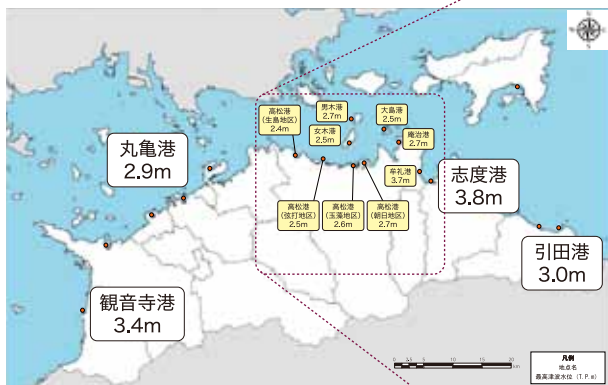
地震発生後に起こる“津波”に要注意!!

最高津波水位予測図（最大クラスの津波）

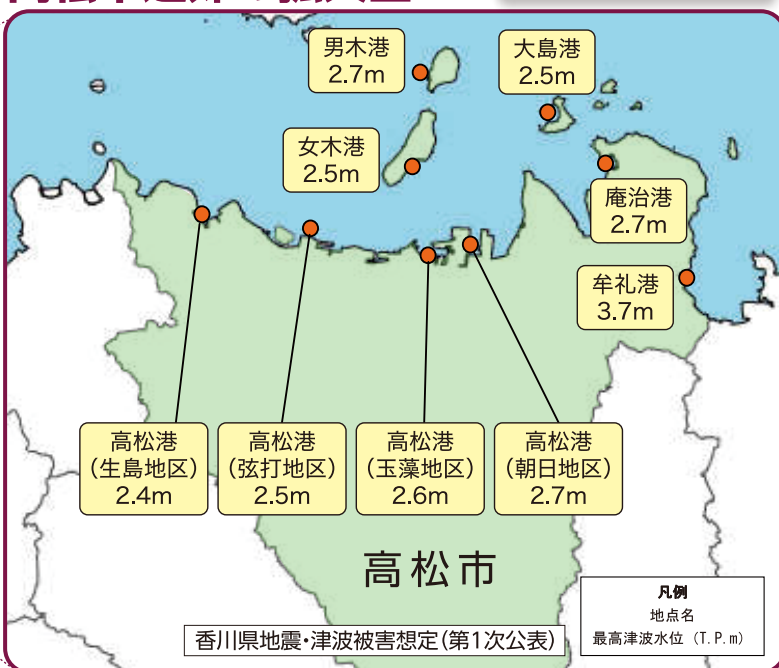
瀬戸内海に入ってきた津波は、地形が複雑なために予測とは異なる現象が生じることも考えられます。

主要な港等の最高津波の水位を示しています

■最高津波がまず最初にやってくるとは限りません。揺れがおさまったら、すぐに避難を開始しましょう。

■津波は繰り返しやってきます。津波警報や避難勧告が解除されるまでは、避難を継続しましょう。

TP:東京湾平均海面
この基準面からの高さを「標高」、「海抜高度」と呼びます。

牟礼港では 3.7m

高松市近郊の拡大図

高松市沿岸部の津波浸水想定図（最大クラスの津波）

○「津波浸水想定」は、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表したものです。

○最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。

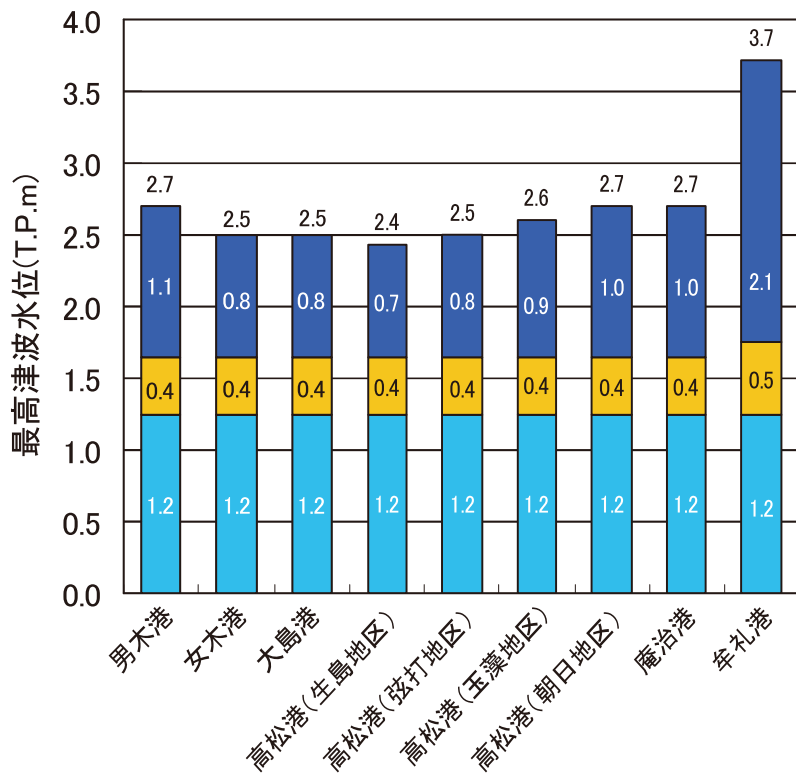
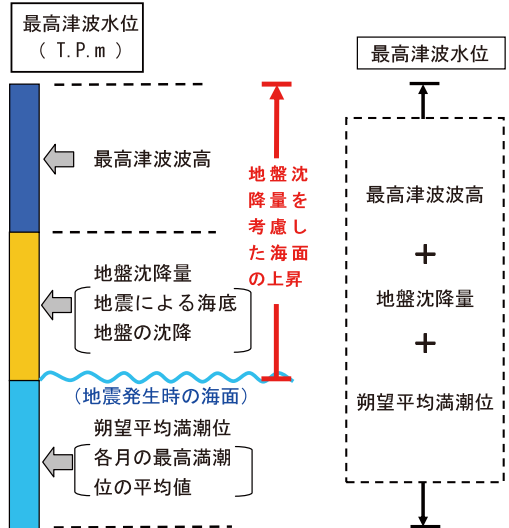
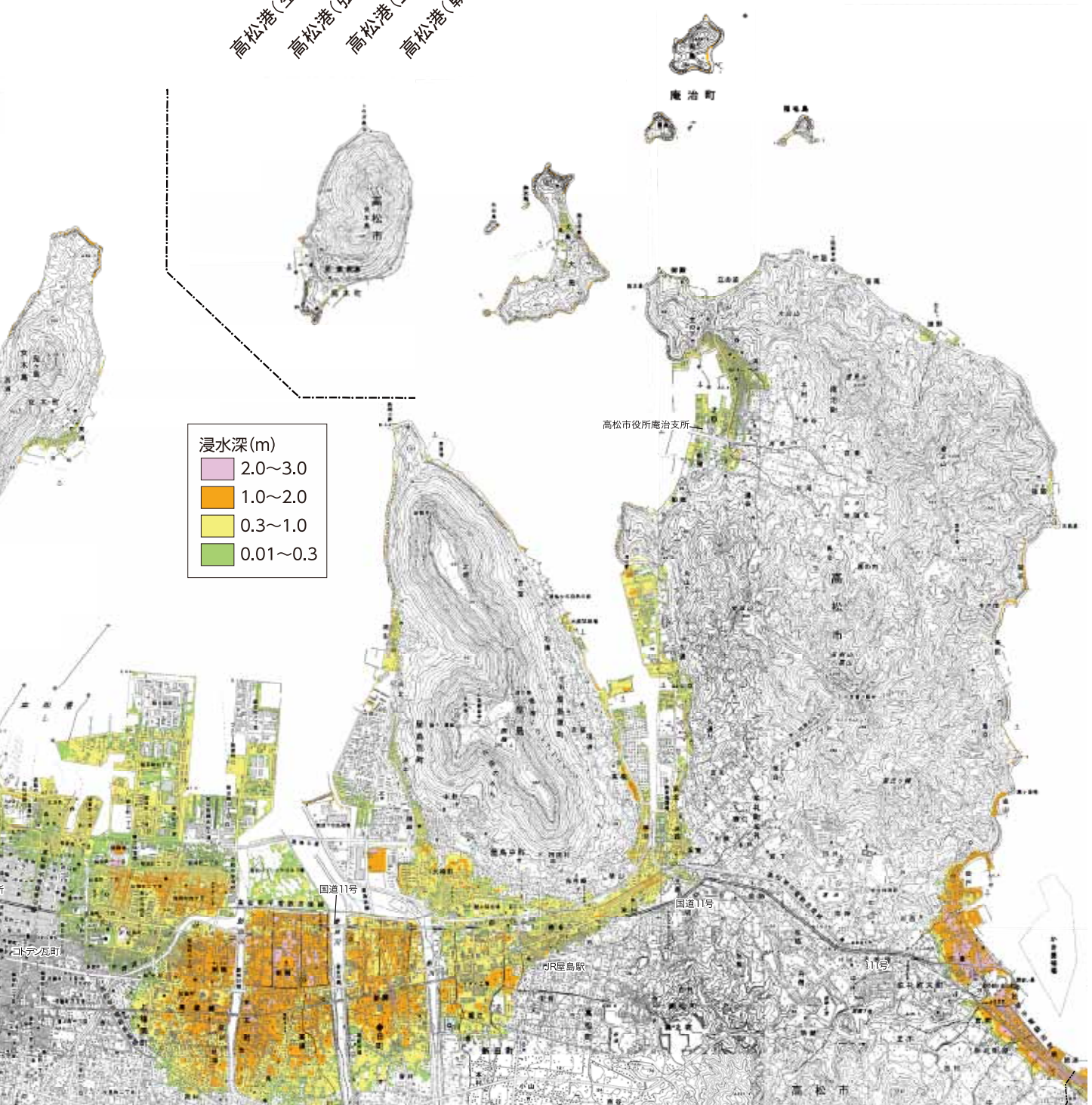
○浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響のほか、地震による地盤変動や構造物の変状等に関する計算条件との差異により、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。

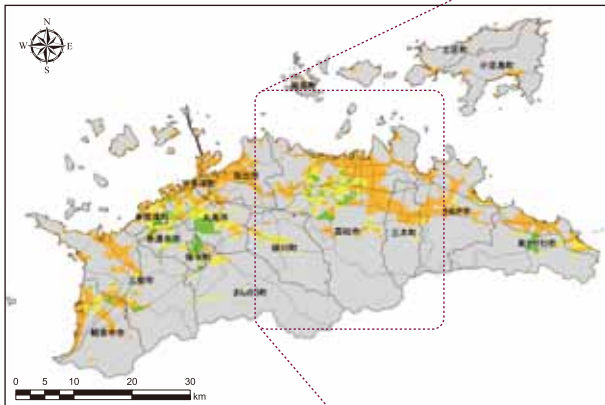
▶詳しくは地域コミュニティ別ハザードマップをご覧ください。

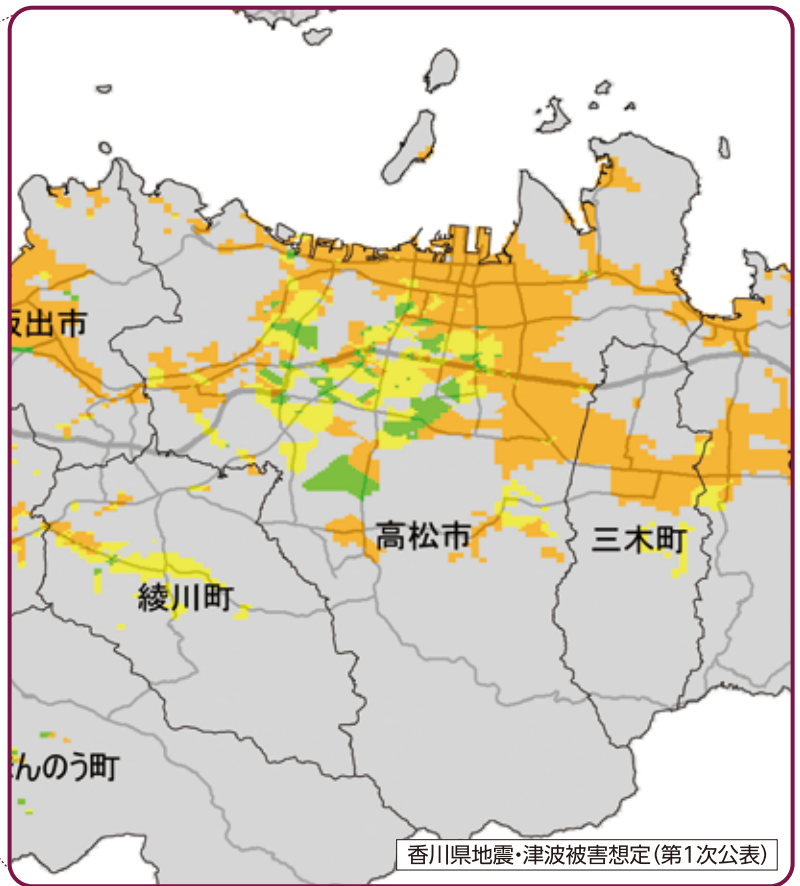
高松では浸水面積1,701ヘクタール

香川県防災センター
高松市
JR香西
JR高松駅
高松市役所
香川県庁

0 1 2 3 4 km
1:60,000

香川県地震・津波被害想定（第1次公表）

最高津波水位(T.P.m)
4.0
3.5
3.0
2.5
2.0
1.5
1.0
0.5
0.0
男木港 2.7 1.1 0.4 1.2
女木港 2.5 0.8 0.4 1.2
大島港 2.5 0.8 0.4 1.2
高松港(生島地区) 2.4 0.7 0.4 1.2
高松港(弦打地区) 2.5 0.8 0.4 1.2
高松港(玉藻地区) 2.6 0.9 0.4 1.2
高松港(朝日地区) 2.7 1.0 0.4 1.2
庵治港 2.7 1.0 0.4 1.2
牟礼港 3.7 2.1 0.5 1.2
最高津波水位の説明
最高津波水位
(T.P.m)
最高津波高
地盤沈降量
地震による海底
地盤の沈降
(地震発生時の海面)
朔望平均満潮位
各月の最高満潮
位の平均値
地盤沈降量を考慮した海面の上昇
最高津波水位
最高津波高
+
地盤沈降量
+
朔望平均満潮位
(注) グラフの数値は四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります
浸水深(m)
2.0～3.0
1.0～2.0
0.3～1.0
0.01～0.3
庵治町
高松市役所庵治支所
国道11号
国道11号
JR屋島駅
コトデン瓦町
11号

香川県液状化危険度予測図（最大クラスの地震）

この液状化危険度予測図は、南海トラフで最大クラスの地震を発生させる断層モデルとして国が示した4つのモデルごとに液状化危険度を算出し、各地点ごとにその危険度の高いものを示したものです。

高松市近郊の拡大図

- 危険度A　（液状化危険度はかなり高い）
- 危険度B　（液状化危険度は高い）
- 危険度C　（液状化危険度は低い）
- 危険度D　（液状化危険はかなり低い）

液状化の危険度がどの程度であるかを示しています

■この液状化危険度は、液状化現象の発生を予測する一定の目安であり、危険度が高い地域であっても、全てが必ず液状化するというものでもありません。

■危険度が高い地域では、重要な構造物等を設計する際に液状化に関する詳細な調査及び対策をする必要があるとされています。

液状化発生のしくみ

❶土の粒子が重なり合い、かみ合っている状態。隙間には水が存在する（間隙水）。

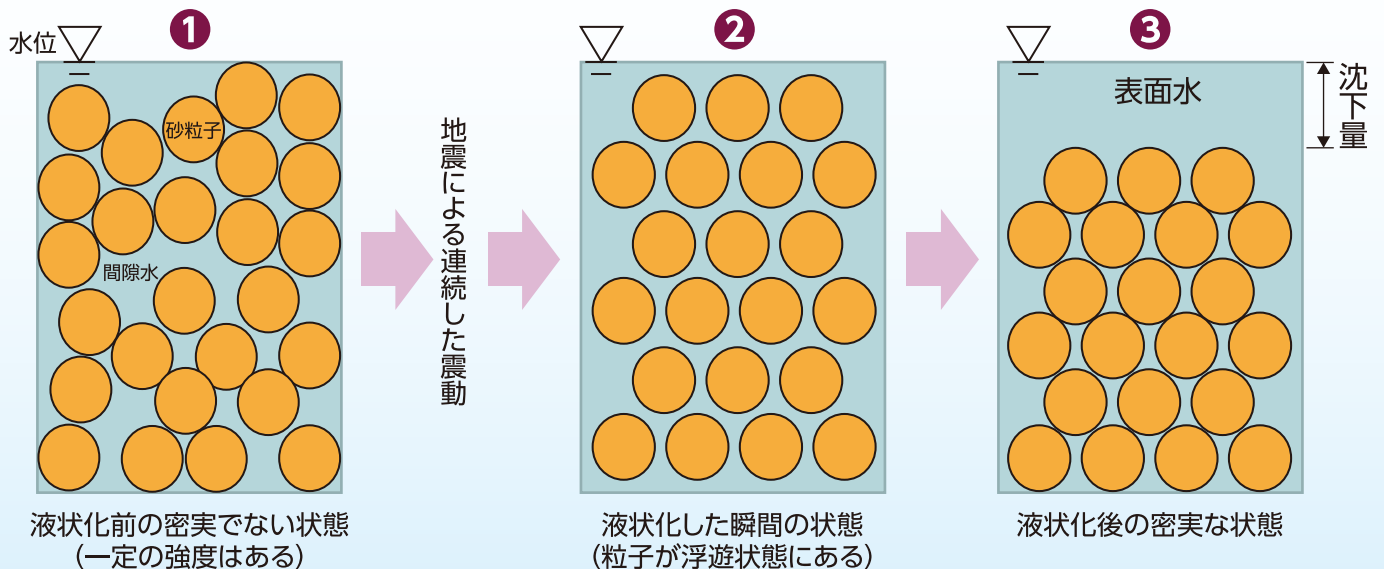
❷土の粒子のかみ合わせが徐々にはずれ、ばらばらになり、水に浮いたようになる（液状化した状態）。

❸時間とともにばらばらとなった土の粒子が沈み、地盤が沈下する。間隙水が地表に噴き出すこともある。

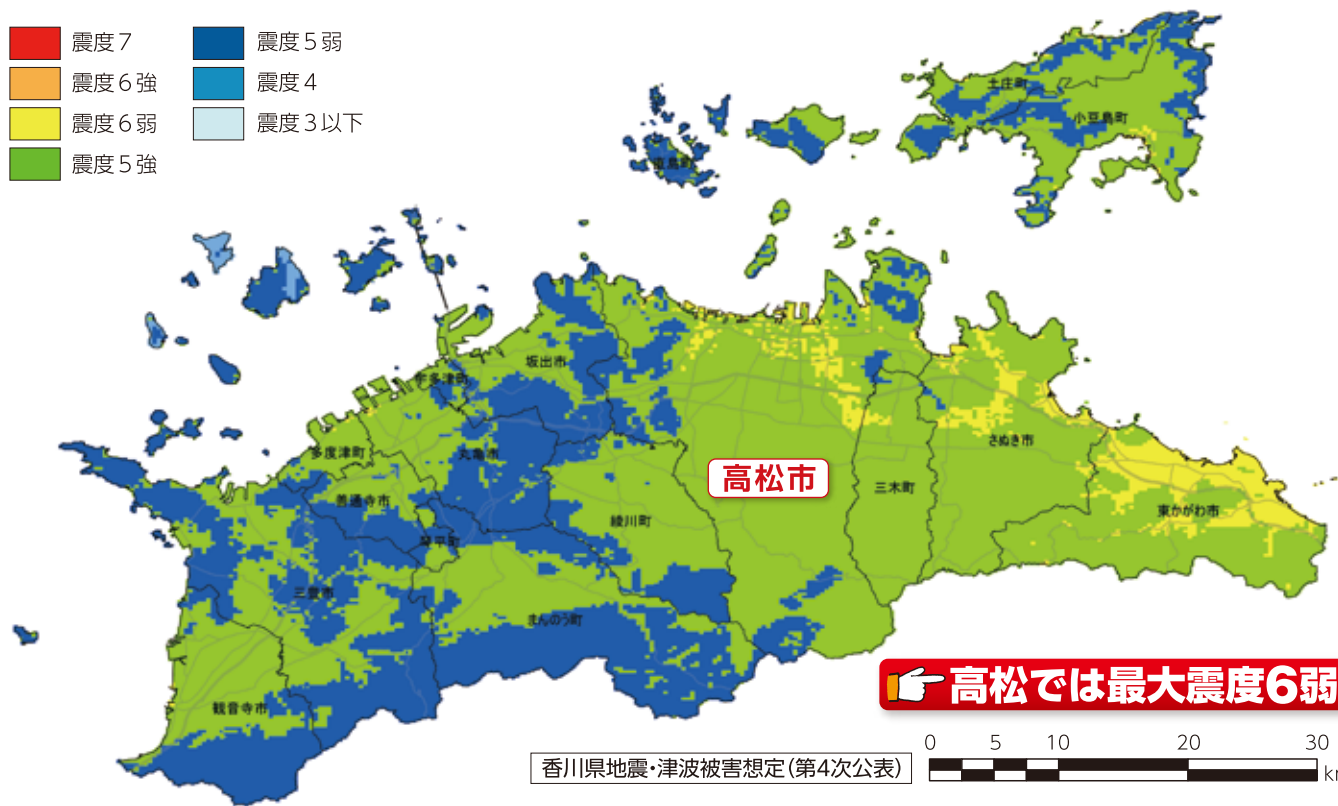
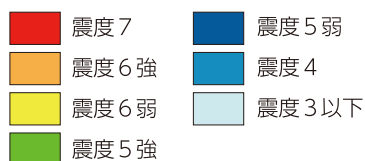
水位　砂粒子　間隙水　地震による連続した震動　表面水　沈下量

❶ 液状化前の密実でない状態（一定の強度はある）

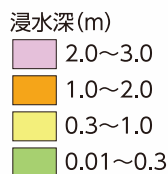
❷ 液状化した瞬間の状態（粒子が浮遊状態にある）

❸ 液状化後の密実な状態

発生頻度の高い地震・津波

香川県震度分布予測図

この震度分布図は、南海トラフで発生する頻度の高い地震として選定した4つの地震ごとに震度を算出し、各地点ごとにその最大値を示したものです。

※地震は自然現象であり、不確実性を伴い、また、現在の科学では限界があることからこの図以上の揺れになることもあります

高松市沿岸部の津波浸水予測図

最大クラスに比べ、規模は小さいものの、一定の頻度（数十年から百数十年に一度程度）で発生する津波を推計したもので、南海トラフで次に発生する津波を示したものではありません。

地震発生後、ライフラインはどうなる? どれくらいで水道や電気、ガスは復旧するのでしょうか?

高松市におけるライフラインの復旧想定

香川県地震・津波被害想定(第3次公表)

項目	内容	復旧グラフ (%)
上水道	発生直後には、約8割の世帯が断水となり、仮復旧に1カ月以上かかる区域約20%を除いて、**1日後には41%、4日後には60%、1週間後には73%、1カ月後には97%が復旧**する見込みです。	1日後 / 4日後 / 1週間後 / 1カ月後
下水道	発生直後には、約2割の世帯で利用困難となり、仮復旧に1カ月以上かかる区域約7%を除いて、**4日後には38%、1週間後には66%、1カ月後には、ほぼ全域で復旧**する見込みです。	1日後 / 4日後 / 1週間後 / 1カ月後
電気	発生直後に全域で停電となり、仮復旧に1カ月以上かかる区域約10%を除いて、**1日後には64%、1週間後には、ほぼ全域で復旧**する見込みです。	1日後 / 1週間後 / 1カ月後
電話	発生直後に約8割の固定電話が通信不能となり、仮復旧に1カ月以上かかる区域約3%を除いて、**1日後には64%、4日後には96%、1週間後には、ほぼ全域で復旧**する見込みです。	1日後 / 4日後 / 1週間後 / 1カ月後
都市ガス	発生直後に約7割の世帯で供給が停止します。仮復旧に1カ月以上かかる区域約2%を除いて、**1日後には8%、4日後には9%、1週間後には11%、1カ月後には54%が復旧**する見込みです。	1日後 / 4日後 / 1週間後 / 1カ月後

※仮復旧に1カ月以上かかる区域とは、津波浸水火災、急傾斜地崩壊により、1カ月以内の仮復旧が困難な被害区域のことです。

交通インフラの復旧想定 (中央防災会議被害想定より)

橋

発生直後、本州と四国を結ぶ道路のうち、神戸淡路鳴門自動車道、瀬戸中央自動車道は被災と点検のため通行止めとなります。西瀬戸自動車道は点検が早期に終わり、当日中に通行が再開されます。他の2ルートは2日目には緊急車両が通行できるようになると想定されています。

空港

強い揺れにより、四国の各空港は一時的に閉鎖となります。高知空港は、津波により浸水し、漂流物や土砂漂着、施設の破損などの被害が発生し、徳島空港では津波により一部が浸水します。高知を除く各空港では、点検後空港運用に支障がないと判断された空港から順次運航を再開します。また、直ちに救急・救命活動、緊急輸送物資、人員等の輸送の受け入れ拠点として運用する計画です。

港湾

震度6強以上のエリアでは、耐震強化岸壁は機能を維持できますが、非耐震の岸壁は陥没、荷役機器の破損、液状化による被害が発生します。3日後には、津波被害が比較的少ない瀬戸内海の各港や優先的に啓開した港湾について、耐震強化岸壁への一部船舶の入港が可能となり、緊急輸送が開始される想定です。

建物被害（全壊）6,100棟、死傷者5,800人!!
県が発表した高松市の南海トラフ地震（最大クラス）の被害想定

という結果が出ました。

早めの対応で、被害想定が大幅に減少します!!

① 建物の耐震化

② 家具類の転倒・落下防止対策

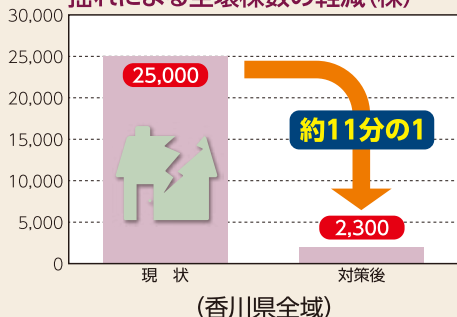
③ 津波避難の迅速化

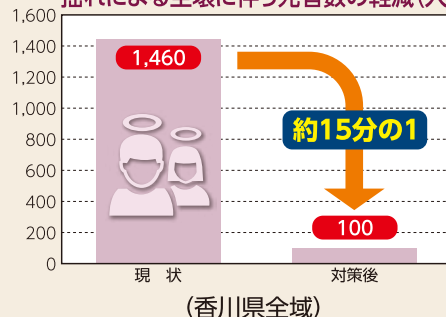
減災効果 香川県地震・津波被害想定（第2次公表）

建物被害

①建物の耐震化

◎県内の住宅の耐震化率は、現状が約76%（平成23年10月現在）となっています。
◎**建物の耐震化率を100%にすることで、揺れに伴う全壊棟数は、約11分の1に、またそれに伴う死者数は約15分の1に軽減**されます。

揺れによる全壊
高松市 4,500棟
香川県全域 25,000棟

（香川県全域）

揺れによる全壊に伴う死者
高松市 230人
香川県全域 1,460人

（香川県全域）

人的被害

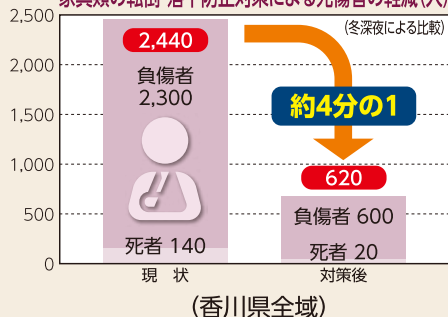
②家具類の転倒・落下防止対策

◎県内の家具類の転倒・落下防止対策実施率は、約13%（平成24年10月県政世論調査）となっています。
◎**実施率を100%にすることで、死傷者数は約4分の1に軽減**されます。

③津波避難の迅速化

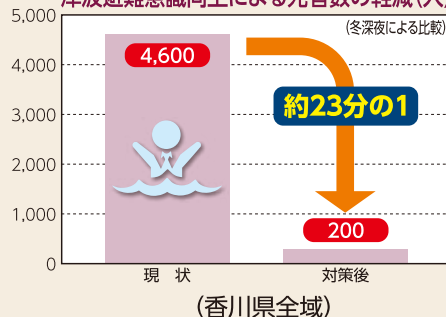
◎地震発生後、**全員がすぐに避難を開始すれば、死者数は約23分の1に軽減**されます。

家具類転倒等による死傷者

	高松市	香川県全域
死者	40人	140人
負傷者	580人	2,300人
合計	620人	2,440人

（香川県全域）

津波による死者
高松市 910人
香川県全域 4,600人

（香川県全域）

専門家に聞いてみました

大切な命を守るために これだけは知って おいてください。

香川大学工学部
安全システム建設工学科教授
香川大学危機管理研究センター研究員

長谷川 修一 氏

大きな地震が発生したら…

慌てずに身の安全を確保

安全なところに移動

より安全なところに避難

【3分間】
地震が起きたらとにかく怪我をしないように、飛散したガラスや倒れた家具から身を守ります。怪我をしても救急車はすぐには来ません。怪我が命とりになることもあります。発生直後の3分間は自分で自分の命を守ってください。

【3時間】
災害直後3時間は、火災や津波などによる2次災害の防止に努めて、できるだけ早くより安全な場所に避難してください。

【3日間】
支援の手は3日間は届きません。自分たちで備蓄した食料で生き延びてください。もしかしたら1週間ぐらいどこからも支援がないかもしれません。他人に自分の命を預けるのではなく、自分たちの命を守るために1週間分の水や食料を備蓄しておいてください。家族が大勢いるので食料の備蓄は大変だと大げさに考えないで、日頃の生活の延長線として栄養補助食品など手軽に食べられるものを備えておけばいいと思います。

▲高松市亀阜地区で防災マップ作成の指導をする長谷川先生と工学部の阿部さん

◆地震が起きたらどうするかを家族で話し合う。
実際に地震が起きたとき、もしばらばらに被災したときはどうするかをしっかり話し合い、家族が集まる避難所を決めておいてください。安否確認の第一報はまず携帯メールでしておきます。すぐには届きませんが送信してください。171（イナイ）の災害用伝言ダイヤルも使ってみてください。

◆いざというときのために仲間づくりをしておく。
災害時は助け合いです。家族や隣近所の人たち、地域の人たちと助け合って避難することが大事です。そのために日頃から仲間づくりをしておいてください。

防災マップは、見えるところに置いていつも見る。
地図を持って、通学路を子どもと一緒に歩き、危険なところを確認する。
自宅から避難所まで歩いてどれくらいかかるかを調べる。

◆決して安全だと思い込まない。
ハザードマップを見て自分たちの住んでいる地域に、どんな災害が起きやすいかをしっかり把握してください。土砂災害や津波による浸水、河川の氾濫などの危険がないところでも決して安全だとは思い込まず、より安全なところに避難してください。

3分間 は身を守る。
3時間 以内に2次災害から逃げる。
3日間 は自分たちで生き延びる。

この3つを覚えて、次のページの「地震発生から避難後までの行動マニュアル」をしっかり読んでおきましょう!!

地震発生から避難後までの行動マニュアル

あっ、地震だ!!

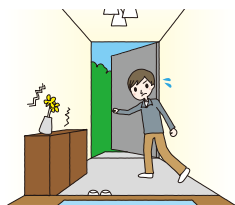
地震発生～3分

まずは身の安全の確保、揺れがおさまったら安全確認を!

1 まず自分の身を守る

落下物から身を守るために机やテーブルの下に入って、テーブルの脚をしっかり持ちます。クッションや座布団で頭を守りましょう。

2 玄関のドアを開けて出口を確保

揺れが大きいと建物がゆがんでドアが開かなくなります。家の中に閉じ込められないようドアを大きく開けましょう。

3 火元の確認

台所で火を使っていたら火を消し、ガスの元栓を締め、ブレーカーを落とします。もし火災が発生したら落ち着いて消火を。火が燃え広がるようなら「火事だ!」と周りの人に知らせましょう。ストーブやタバコ、仏壇のろうそくや線香などの火も確認を。

4 靴や底の厚いスリッパを履く

ガラスの破片や散乱物は危険です。靴や底の厚いスリッパを履いて足を守りましょう。

5 家族の安全確認

一緒にいた家族が倒れた家具の下敷きになっていないかを確認します。

学校にいたら

- **教室では**、机の下にもぐり、机の脚をしっかり持って頭と体を守ります。あわてて教室から飛び出すと危険です。
- **廊下や出入り口、階段では**、近くの教室に入って机の下にもぐります。大きな揺れで動けないときは、ガラス窓や蛍光灯の下から離れてしゃがみ、頭を守ります。下駄箱やロッカーが近くにあれば急いで離れましょう。階段ではあわてて行動すると危険です。その場にしゃがんで揺れが収まるのを待ちましょう。
- **運動場では**、校舎や塀などから急いで離れ、運動場の真ん中に集まりましょう。
- **体育館では**、落下物に注意しながら真ん中に集まってしゃがみ、頭を守りましょう。
- **音楽室や図書室などでは**、ピアノや本棚の側から急いで離れ、机の下にもぐります。

実験室や調理室で火を使っているときは、無理に火を消そうとせず、揺れが収まってから火を消します。

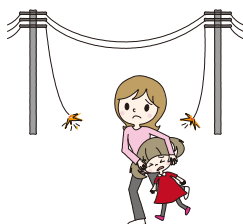
ビルの中のオフィスにいたら

急いで机の下にもぐります。避難するときは割れた窓ガラスの破片に気をつけて、非常口から避難しましょう。エレベーターは使わず、階段で避難しましょう。

山間部にいたら

- できるだけ早く安全な場所に移動します。
- 土石流はスピードが速いので、逃げるときは土砂崩れの方向に対して直角(真横の方向)に逃げてください。
- 大雨後はがけ崩れや地滑りに注意しましょう。

ビル街・住宅街にいたら

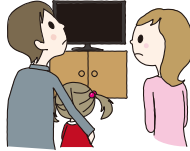
- 落ちてくる瓦や窓ガラスの破片に注意しましょう。
- 切れた電線には絶対に近づかないようにしましょう。
- ブロック塀や門柱、自動販売機は転倒しやすいので近づかないようにしましょう。

自動車を運転していたら

- びっくりしてあわてて急ブレーキ、これが一番危険です。追突やスピン、横転の危険があります。スピードを落として道路の左側に停車しましょう。
- カーラジオで被害状況を把握しましょう。
- 車から離れて避難するときは、キーをつけたまま車検証や免許証などの貴重品を持ち、徒歩で避難をしましょう。

3分～3時間

余震に注意しながら二次災害を防ごう! ご近所の安全確認をしよう!

1 正確な情報収集を

テレビ・ラジオなどから正しい情報を収集します。また、避難勧告が発令されたときや、発令されていなくても身の危険を感じたら、避難を開始しましょう。

2 隣近所への声かけ

余震に注意しながら、けが人や行方不明者がいないか声かけをして確認します。特にひとり暮らしのお年寄りや体の不自由な方などのいるお宅に声をかけましょう。

3 火災時には協力して消火を

「火事だ!」と聞こえたら消火器やバケツリレーなど、隣近所で協力して初期消火にあたりましょう。

4 指定緊急避難場所・地域の一時避難場所へ

避難勧告等が発令されたときは、速やかに、最寄りの指定緊急避難場所または地域で定められた一時避難場所などの安全な場所に避難しましょう。

●自宅退避も選択肢のひとつ

建物の倒壊の危険性がない、津波の浸水想定区域外である、火災の危険がないなど、自宅等が危険でなければ、その場にとどまった方が安全な場合もあります。状況に応じて、冷静に判断し、行動することが必要です。

指定緊急避難場所の名称・所在地については、地域コミュニティ別ハザードマップをご覧ください。

⚠ 津波警報が発令された場合

津波の浸水想定区域内では避難を開始

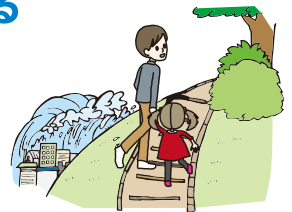
強い地震はもちろん、弱い地震でも長時間揺れを感じたら、津波災害に備え避難を開始しましょう。

高松市における津波避難時の心得

❶ 海から遠くへ逃げる

まずは津波浸水想定区域から離れるとともに、できるだけ標高の高い方向(南方向や山側)へ向かいましょう。

❷ 高い場所へ逃げる

津波浸水想定区域内から逃げ遅れたり、浸水が始まったときは、津波避難ビルなど、想定浸水深以上の高層建築物や高台に避難しましょう。

❸ 車は使わない

車での避難は渋滞に巻き込まれたり、その原因になります。また、停電による信号機の停止や気の焦りから交通事故に巻き込まれやすくなり、逃げ遅れる可能性が高くなります。

●海岸・河川に近づかない

津波注意報でも海水浴や磯釣りを行うことは危険です。

●津波は繰り返しやって来る

津波は第一波が終わっても続いて第二波、第三波と繰り返し押し寄せてきます。また、第一波よりも第二波、第三波の方が大きいこともあります。警報等が解除されるまでは、避難場所にとどまりましょう。

●水の深さが30cmになると歩けない

津波は水に勢いがあるので、深さ30cmぐらいになると歩けなくなります。浸水が始まれば、付近の高層建築物や高台などに避難しましょう。

津波避難ビル

付近に高台がない津波浸水想定区域において、短時間に津波から避難できるよう107カ所(平成26年6月現在)の「津波避難ビル」を指定しています。避難が遅れた場合は、津波避難ビルへ避難しましょう。

津波避難ビルの名称・所在地については、地域コミュニティ別ハザードマップに掲載しています。

▲このステッカーを掲示しています

▲周辺のマップを掲示しています

避難後

避難後は助け合いの心で行動を

1 災害情報・被害情報の収集

テレビ、ラジオ、行政からの情報などにより、いち早く正確な情報収集に努めましょう。

2 避難勧告の解除までは避難場所に滞在

地震や津波がおさまっても、避難勧告が解除されるまでは、その避難場所にとどまりましょう。

3 避難勧告解除後の避難生活

自宅等が被災した場合は、最寄りの指定避難所等において一定期間滞在することになります。

指定避難所の名称・所在地については、地域コミュニティ別ハザードマップをご覧ください。

指定避難所等における避難生活の心得

1. **ゆずりあいの心**をもって、共同での生活ルールを守りましょう。
2. お互いの**プライバシーを尊重**しましょう。
3. **ゴミは所定の場所**へ集積するなど、衛生的な生活環境を保ちましょう。
4. お年寄り、体の不自由な方、乳幼児を抱えた方などに**気配りを心掛け**ましょう。
5. 避難所運営リーダー等の指示に従い、お互いに協力するとともに、**ちょっとした工夫と配慮で生活しやすい環境づくり**に努めましょう。

非常用持ち出し品については、わが家の防災セット（P34～P35）をご覧ください。

避難生活における健康管理

避難所等で生活するのは大変不自由なことです。ストレスや疲労から体調を崩してしまうことがあります。健康管理には十分注意しましょう。

- できるだけ体を動かしましょう。
- 十分な水分をとり、脱水症状にならないようにしましょう。
- 座ったままでも、足の指やつま先を動かすなど足の運動をしましょう。
- 避難所では、ゆったりとした服装で過ごしましょう。

女性に配慮した避難所環境づくり

東日本大震災や阪神・淡路大震災の避難所において、男女のニーズが十分理解できていないことやプライバシーの配慮不足、安全確保などが課題となりました。このため、避難所運営においては、女性のより積極的な参画が必要となります。

目指す避難所環境とは

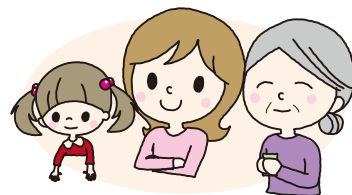
1 プライバシーなどに配慮した避難所設計と運営

○一人暮らしの女性やお年寄り、体の不自由な方、乳幼児のいる家庭など被災者に応じて、間仕切りを工夫するなど、プライバシーの確保。
○男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など、女性に配慮した設備配置。

2 避難所生活における安全性の確保

○声かけの実施など、女性や子どもを一人で行動させない仕組みづくり。
○屋外トイレ周辺の夜間照明の設置や巡回パトロールの実施など、防犯対策の徹底。

3 女性などの声が通りやすい環境づくり

○避難所運営組織に女性が関わるなど運営体制等の協議に参画したり、女性が意見を出しやすい仕組みづくり。

高松市防災女性チームの提言資料より

高松市防災女性チームについては、P31または市ホームページに掲載しています

あなたの家は安全ですか?

建物の耐震性を知り、対策を講じること、さらに家具の転倒防止対策を行うことは減災につながります。

耐震診断で住まいの強度チェックを!

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で犠牲になった方々の約8割以上は家屋の倒壊や倒れてきた家具などによる圧死や窒息死、その後の火災によるものでした。地震の被害から自分たちの命を守るために、家屋の耐震化、家具の固定化を行いましょう。

木造住宅の簡単診断

該当する項目にチェックを入れましょう ☑

1	昭和56年5月31日以前の建築である。	
2	何度か増築している。壁や柱の一部を撤去している。	
3	建物がLの字やTの字など、複雑な形をしている。	
4	一辺が4m以上の大きな吹き抜けがある。	
5	2階の外壁の真下に1階の内壁または外壁がない。	
6	1階の東西南北のうち、壁が全くない面がある。	
7	床下・床上浸水や火災に遭ったことがある。	
8	シロアリ被害が発生したことがある。	
9	和瓦や洋瓦など重い瓦が使ってあり、1階に壁が少ない。	
10	基礎工事が鉄筋コンクリートの布基礎、ベタ基礎、杭基礎になっていない。	

上記の項目をチェックして該当する項目が3つ以上ある場合は、早めに専門家の耐震診断を受けましょう。
日本建築防災協会ホームページ (http://www.kenchiku-bosai.or.jp) でも確認できます。

高松市の取り組み

あなたの家の耐震診断、耐震改修工事をしませんか?

高松市は、地震に対する住宅の安全性の向上と人的被害、経済的被害を軽減することを目的に、住宅所有者が耐震診断並びに耐震改修工事を行う場合、その費用の一部を補助します。

対象となるのは

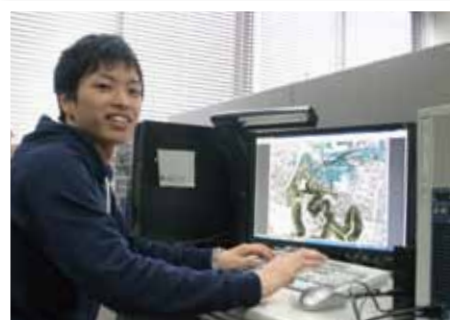
○昭和56年5月31日以前に着工された戸建て住宅、長屋建て住宅並びに併用住宅(住宅以外の用に供する部分の床面積が延べ面積の2分の1未満のもの)です。
※枠組壁工法、丸太組み工法及び大臣の特別な認定を得た工法によるものは除きます。
○耐震改修工事については、耐震診断により、構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性が、地震により倒壊し、若しくは崩壊する危険性が高いと評価され、または倒壊する危険性があると評価されていることが条件です。
○補助金の交付申請の時点において、建築基準法に基づく重大な違反がないことが条件です。

市街地には、割と古い家屋が多く残っています。この機会に考えてみてください!!

補助対象者

市内に対象となる住宅を所有し居住する方です。ただし、市税の滞納がない方に限ります。

補助金の額

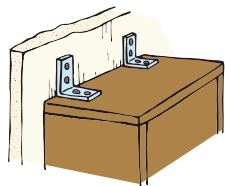
補助金の額は、耐震診断及び耐震改修工事についてそれぞれ以下のとおりです。
(1)耐震診断に係る補助金の額は、耐震診断に要する費用の10分の9に相当する額(上限9万円)です。
(2)耐震改修工事に係る補助金の額は、耐震改修工事に要する費用の2分の1に相当する額(上限90万円)です。
※申請額が予算額に到達次第、受付を終了します。

お問い合わせ先 高松市建築指導課 TEL.087-839-2488 E-mail:kenchikushidou@city.takamatsu.lg.jp

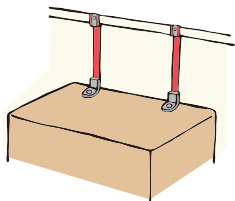
家の中は安全ですか?

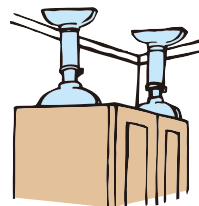
タンスやピアノ、本棚など、家の中には危険がいっぱい!

家具の固定で危険防止を

固定型

L字型の金具で家具を壁や柱に直接固定します。壁などの強度が必要です。

吊り下げ型

家具と壁をベルトやチェーンで数カ所ネジ止めして固定します。背の低い家具や冷蔵庫、電子レンジなどに適しています。

突っ張り型

ポール式器具(突っ張り棒)で家具と天井の間を止めます。壁を傷つけずに固定できますが、家具と天井の間が大きく開いていたり、奥行きのない家具だと効果が出にくいので注意を。

ストッパー型

家具の前の部分にストッパーを挟み、家具を壁側に傾斜させます。突っ張り棒と組み合わせて使用すると効果があります。

注意 タンスが上下2段に分かれているタイプは必ず上下を金具で固定しましょう。

ガラスは危険!

◎窓や食器、鏡などは割れると、とても危険です。
◎大きなガラス窓には**飛散防止シート**を貼りましょう。
◎食器棚には食器類の飛び出しを防ぐための滑り止めシートを。
◎開き戸式の戸棚には**留め金**をつけましょう。

転倒防止のコツ

◎じゅうたんやたたみの上に背の高い家具を置かない。
◎家具は前のめりより、後ろにもたれ気味に置く。
◎重いものを下の方に収納し、倒れにくくする。
◎家具の上にガラス製品やテレビなどを置かない。
◎テレビやパソコンは取扱説明書の転倒防止方法に従う。

家具の配置で危険防止を

寝室にはできるだけ家具を置かない

背の高い家具は置かないようにしましょう。お年寄りや子ども部屋は特に注意を。

玄関や部屋の出入り口に家具は置かない

玄関には自転車やベビーカーなどを置かないように。脱出時の妨げになります。部屋の出口近くの家具は倒れると出口をふさぎ、出られなくなります。

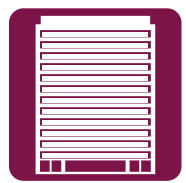
リビングや子ども部屋に背の高い家具は置かない

子ども部屋は特に注意を。

リビングに頑丈なダイニングテーブルを置く

とっさのときにもぐりこめます。脚には家具用すべり止めを。テーブルの下には懐中電灯を取り付けておくと便利です。

家の周囲の危険も点検

ブロック塀は倒れると危険なので、ひび割れや破損がないかチェックしておきましょう。ベランダの手摺りの上には物を置かないこと。吊るした植木鉢は固定しましょう。プロパンガスのボンベは水平なコンクリートの上に置き、建物の壁にチェーンで固定しておきます。

大地震発生！その復旧と支援体制

国の防災拠点を高松市に 官民一体となった広域防災体制を目指す「四国地震防災基本戦略」

甚大な被害をもたらすおそれがある南海トラフ巨大地震が発生した場合、震度6強から震度7の強い揺れが四国各所で発生するおそれがあり、沿岸平野部や川沿いで液状化や地盤沈下、中山間部では土砂災害等が発生し、さらには太平洋沿岸域を中心に巨大な津波が来襲することが想定されています。
もしも、これらが現実のものとなった場合、水道、電気、通信などのライフラインが停止するとともに、道路の寸断や港湾の被災、鉄道、空港の不通、海上漂流物による海上輸送の途絶など、交通インフラにも甚大な被害を及ぼすことになります。
このような想定のもとに、国や県、大学、ライフライン事業者などで組織された、四国南海トラフ地震対策戦略会議において、東日本大震災の被災と復興を踏まえ、平成23年12月「四国地震防災基本戦略」を作成し、災害への備えを進めるとともに、被災した際の迅速な応急対策と、早期復旧に向けての広域的な支援、連携、受け入れ体制の確立に取り組んでいます。
救急や物流に必要となる交通路については、太平洋側に比べて被害が小さい瀬戸内側を東西に接続するラインを確保し、次に太平洋沿岸地域へのラインを拡大する計画となっています。また、サンポート高松にある国の合同庁舎に防災拠点を設け、高速道路や高松空港、高松港などを中心に四国4県の救援・救護、救出活動を始め、食料、飲料水、生活必需品等の緊急物資の輸送体制の強化等を図ることとしています。

四国における復旧オペレーションイメージ(国土交通省四国地方整備局資料)

最先端の技術で市民を守る危機管理の中枢拠点『高松市危機管理センター(仮称)等』が平成30年度供用開始予定

『高松市危機管理センター(仮称)等』は、高松市の防災力と業務維持能力の向上を目的に、災害発生時の情報拠点や指揮命令拠点となる「災害対策本部機能」、救助・救出の中心的役割を担う「消防局機能」、上下水道の被害状況の把握や応急給水・応急復旧活動を行う「上下水道局機能」等を集約した、「安全・安心のまちづくり」の中枢拠点として整備します。